

Love  
ラブペットプラム

愛玩物  
愛物

愛玩物館の萌え系  
「エロ」系



姉●崎ネネ。3人の中で一番大人びていて、体つきはいかにもオヤジどもが食いつきそうなムチムチボディだ。彼女自身も年上好みのようで、簡単に落とせた。面倒見がいらしい彼女は何かと頼られることも多く、いつも世話役を買っていたらしい。



頼られるのは嫌いじゃないが、たまには甘えてみたいという欲求が高まったように、優しくしてやるとコロツと行気になってる男はいるようだが、お構いなしにハメまくおかげで今では交尾をするための旅行でもこうしてホイホイ野外露出という変体行為にも応えるようになった。

この女は●嶺マナカという名前で、テニス部所属で学園のアイドル的存在だ。白い肌に程よく引き締まった身体。しかし出ているところはちゃんと出ている。さぞかし学園では格好のオナネタなのだろう。



清純なお嬢様…、表の顔は。裏ではある会社の社長のペットだ。親が懇意にしている会社の社長らしく、そこを取っ掛かりに墮としたそうだ。親からの信頼は厚いのでこんな旅行にも余裕で連れてこれる。まったく、うらやまー。実際はこんなことをしていると知ったら卒倒すること間違いなしだ。スワップ可の温泉旅行なので、たっぷりと楽しませてもらおうことにしよう。ふふふ。

この小さな女の名は小●川リンコ。乱暴な性格だったらしく取り入るのは中々大変だったようだ。複雑な家庭環境みたいで愛情に飢えているのを感じ取ってからは、そのスキマに忍び込むようにして落としていった、ということだそう。なんともヒドイ男である。(笑)



表面上はツンケンとしているが、相当懐いていて俺たちのペットと同じく露出行為を指示するとその可愛らしいオマンコを披露してくれた。ちなみに、相当感度がいいらしく、今も何もしていないのにトロトロと気持ちよさ垂らしている。

旅館に着き、部屋に着くと早速交尾大会が始まった。果実をいただくためには、まず自分から身を切らないといけない。ということ、自分のペットであるネネを差し出した。

「じゃあ遠慮なく…」と社長は言い、裸になると、よつんばいでケツを向けてさせていたネネのオマンコにペツ、とツバを塗りたくり、ガチガチに勃起したチンポをズブリ、と突っ込んだ。

「ダメえ」と言葉では抵抗を示すネネだが、今日初めて会った男に、一発で孕むかも知れない生チンポを突っ込まれ、そのシチュに大興奮の様子で、すぐにヌチヨヌチヨとオスを悦ばせる汁を排出させ始めた。

あ

ん

ダメ

ヌチヨ

ヌチヨ

ヌチヨ

2、3分腰を振ってノッてきたのか、ネネはエロ声を  
出し始め、濃い肉色の秘部はいつそうヌメッてきた。

快楽に負け、すぐに身を許してしまうビッチに調教したのは  
俺だが、内心少しイラッとする。だが、これも  
スワッピングの醍醐味というものだろう。  
お互いのパートナーが他のチンポやマンコでアへる姿は興奮もする。  
そして嫉妬の入り混じった感情を肴に興奮した粘膜をこすりあう。  
この快楽は他ではなかなか味わえない。

そんな思考をめぐらせていると、社長はそろそろ限界が近いのか  
ハアハアヒイヒイと声を荒げ始めた。ネネも自分を気持ちよく  
させてくれる肉の棒の魅力に夢中になっていた。





あ...!!

!! しゃぶしゃぶ !!

社長は一段腰を大きくネネの陰部に打ち付けると大きなキンタマをひくつかせ射精した。  
ブルブル!!

チンポがしゃくりをあげ、汚らしい尻の穴が収縮する度にネネの子袋が俺以外の孕み汁で満たされていく。彼女もその脈動を感じ取り、身を硬直させオスの精子を受け取る。

くわん!!

ブルブル!!



社長はひとしきり肉欲を吐き出すと、ネネの体から離れた。コポコポとピンク色の穴ポコからたつぷりの臭いチンポ汁がこぼれ落ちた。

ネネも絶頂には達しなかったようだが、たつぷりとチンポをしごき、オスを満足させた。愉快からかピクピクと体をうごめかせ、トロンとした瞳をこちらに向けていた。



さて、お次は俺の番だ。たっぷりと楽しませてもらうぞ。俺は社長にことわりを入れたあと、マナカをコロン、と寝転がせ、片足を俺の肩に掛けさせた。少々腰に負担を掛けさせる格好だが、密着度が増し、結合部もハッキリと見せつけられる。

腰の負担を軽くするように、片方の手でマナカの腰を持ち、空いた手のほうでキメの細かい白い肌を揉みしだいた。ふにゅふにゅ… フトモモ、腹、オツパイ、どこを触っても柔らかい。ネネのプリプリの弾力肌とは正反対の感触で面白い。いじられた若い肌は悦ぶようにサツ、と朱の色に染め上げた。

舌と舌をねつとりと絡ませ勃起したチンポでベチベチとマンコを叩いていると辛抱ができなくなってきたのか、マナカはチンチンをねたるような切ない目で俺を見つめてきた。





しばらくヌポヌポと俺のチンポの味を染み込ませながら、淫猥な言葉を投げかけてやると  
マナカは面白いように恥ずかしがり頬を染めた。しかし体は正直で、きゅんきゅん、と  
オマンコは悦びうねりたくっている。

その動きは実に絶妙で、スパートを掛けるタイミングも取れず  
思わずザーメンを漏らしてしまった。



俺は軽い敗北感を味わいつつも、ヒクヒクと締め付けてくるエロ肉に  
情けなくチンポ汁を絞り取られる。

たっぷり吸い尽くされた後  
チンポを引き抜くと、流れ落ちる  
ザーメンにまみれたオマンコの入り口が  
一定の間隔でヒクツ、ヒクツ、と痙攣を  
繰り返していた。  
アナルも連動してパクパクとうごめいている。  
もしかして…イッたのか？

マナカを見つみると、先ほど以上に頬を赤く染め、  
瞳はうつすらと涙まで浮かべながら、バツの悪そうに  
視線を逸らしていた。



マナカとのオマンコ後、雑談をしながら楽しくワイワイと休憩を…  
ということもなく、エロ話で興奮した俺たちは思い思いに近くに  
あるマンコにチンポを突き立てていた。

リンコはペットたちの中では一番小さく、オマンコも比例して  
毛も生えていないくらい小さく可愛らしかった。  
こんなロリマンでちゃんと入るのだろうか?と思ったが、  
そんな心配はまったくの杞憂で、しっかりとチンポを  
啜えこんでくれた。





ずっと体を密着させ、ペロチューしまくりながら、  
始まったばかりの淫行旅行に期待で胸を弾ませていた。

ギューン！

メムホーン...

体の相性が良かったのか、とても気分良くセックスが  
できた俺たちは、行爲が終わったあとでもお互いの  
汁まみれの体をいじくりあった。

ぬと

お

♡♡♡♡♡

おん

ビュンビュン

はっ



精子や愛液の臭いで生臭くなったので  
全員で温泉に向かう。  
もちろんそれは口実で、メインの温泉Hに  
胸をワクワクさせていた。

そうして風呂場に  
着たが、ただ単に  
セックスをするだけ  
ではつまらないので  
ペット達には「水着」を  
着てもらった。  
何にも隠せない、  
そのヒモだけの水着に  
3人は流石に  
恥ずかしそうだった(笑)







途中から足を閉じさせ、狭いオマンコをもっときゆうきゆうにした状態でヌコヌコとほじくる。内腿の肉付きは良いので、密着感が素晴らしい。アナルも指でにゅるにゅるいじつてやるとリンコは一層気持ちよさそうにアヘアへとよがり出した。

リンコがすっかり気に入っていた俺は、温泉でも生ハメセックスをしてやった。相変わらず言葉遣いはぶつきらぼうだが、うれしがっているのは見え見えだ。可愛らしいオッパイをプルプル震わせながら、俺のチンポを味わい尽くそうとみだらに腰を擦り付けてくる。



かまわず俺はアケメマンコをズボズボ突いてやると  
さらにどこかにブツ飛んでしまい  
オマンコとアナルはずつとヒクヒク  
パクパクさせていた。

ははは。またイッてるな。  
小さな体をビクンビクンと震わせながら、瞳は中空をうつろにさまよい  
意識がどこかに飛んでしまっている。



リンコもそれに応えるように  
何度目かもわからないアクメに  
ビクビクと体をうち震わせていた。

~~~~~  
!!!  
~~~~~

ピュッ!

ピュッ!!

ビクビク  
~~~~~  
ゴクゴク!!  
~~~~~

それから、指がふやけるほどの時間、何度も何度もオマンコをいじめ倒してやった。途中からは潮を吹き、一度、カクンと意識も失った。イキやすい体質らしいがここまでスケベな状態になるとは思っていなかったらしく、リンコの飼い主はかなり複雑な表情でこちらを見ていた。俺はそいつの知らないスケベリンコを引きずり出したことに優越感に浸りながら、濃厚な液体を彼女の子袋に注ぎ込んだ。



いつまでもつながついていなかったが、流石にそういう訳にもいかないのでヌポン、とチンポを引き抜いた。  
リンコはまたブルツと身を震わせ熱っぽい視線を俺に向けていた。



もう隠すことなど無くなっている俺たちは、本性もあらわにサルのごとく腰を動かす。

親ほど歳が離れているオヤジたちの高速ピストンに、ネネとマナカは息も絶え絶えにアンアンとスケベ声を上げて快楽に飲み込まれている。

ネネは、不意に尻をピシヤツと叩かれ、本日の初イキを許してしまった。クソツ(笑)



社長も流石はマナカの飼い主。どこをどうすればスケベになるかよく心得ている。腰の角度を変えるとマナカはあつという間にアヘアへと言い出し絶頂に持っていられる。

アヘアアヘア



ゼッ! ゼッ!!

ムム

ゼッ!

ネネも初アクメで火がついたのか、大きな声を上げてチンポをしごいていた。



ゼッ! ゼッ!!

んんん

ムム

ギル!!

適度にエロ肉を堪能したオヤジたちは、プビュツ、と遠慮なくマンコにザーメンマーキングをした。



オヤジたちの孕み汁をたっぷり受け取った2人の秘部は  
ヌラヌラと塗れて怪しく輝いていた。









言葉責めに一層興奮したネネは、のどの奥まで届くぐらい大きく頭を動かし、チンポ全部をくわえ込んだ。根元から吸い尽くされるような口マンコと、内部でヌチャヌチャといやらしく動かす舌の感触に辛抱ができなくなり、口の中にデザートを注ぎ込んだ。

のどの奥に感じる、生臭く熱いほとぼしりを受けたネネは、触れてもいないのになんと絶頂に達してしまった。



尻叩きイキといい、のどまんこイキといい、  
今回の旅行で、隠されていたスケベネネを  
またひとつ知ることができた。

はぁー  
ズッコケネ  
ゴん

ピョッピョッ  
ピョッピョッ  
ピョッ

これは帰ってからがまた楽しみだな...と  
ザー汁にまみれたチンポを見つめながら  
潮を吹いているネネをみてそう思うのであった。





食後のデザートも済んだので、布団を敷き本格的に乱交大会を始める。

俺は、朝ヤツた時のリベンジとしてマナカを選んでハメた。数十分掛けてじっくりと愛撫したので、今度は遅れを取ることはないだろう。…それにしても、なんて気持ちの良いマンコなんだ。





チンポのことしか考えられなくなっていたマナカに子作りしてもいいか?と聞くと  
うん、と答えたので、安心して中出しをやった。

ピンピンに反り勃つ乳首。食いしばった歯とヨダレ。良家の  
お嬢様とはとても思えない痴態を晒し、生ハメセックスで  
アヘりまくり。社長とのつながりが無ければこんな機会は  
無かったと思うと、より一層子作りに励んでしまう。









オヤジたちはほぼ同時にイッたが、女のほうでイッてるのはどうやらネネだけみたいだな。  
ふふ、勝った！  
どうでもよい勝利感で満足した俺は、よくやったネネマンコをヌコヌコと  
小突いてやった。ネネはさらにピクン、と体を仰げ反らせ、連続アクメを迎えていた。



流石に動画だと恥ずかしがるのか、3人は必死に声を押し殺しているが、いつまで持つやら(笑)

最後は動画投稿用にカメラを回しながら逆駅弁スタイルでフアック。チンポをズッポシ嬉しそうにくわえ込んだオマンコを見せ付けるようにカメラに向ける。







それから数日。

俺は相変わらずこの温泉旅館でネネの体を  
いじめ抜いていた。  
スワッピングで色々と性癖が新たに開発されたので  
旅行を延長して、さらなる開発にいそんでいるのだ。

社長たちは一足先に帰っていった。  
マナカは絶品の具合だったな。  
また機会を取り持つてハメたい  
と思う。

リンコとは体の相性が良かったので  
飼い主に内緒で連絡先を教えあった。  
飼い主とは精神的なつながりがある  
ようなので奪うことは難しいが  
セフレなら余裕だろう。



そんな俺の心のうちを知る由も無く、ネネは  
目隠し&まんぐり返しの状態で  
チンポを堪能していた。







「この旅行で孕んだかもしれない」と  
ネネに言うと、困ったような、嬉しそうな  
表情を浮かべた。

マンボクロツきのやらしいマンコは、ピクンピクンと  
おねだりするようになごめいていた...

